

多古米を全国から選ばれるブランドに

答 今後のブランド戦略を関係者と協議します

**多古米だから買いたいと
選ばれるブランドへ**

問 多古米固有の品質や価値を明確にし、指名買いや安定した取引先を増やすことで、相場変動に過度に左右されにくい販売基盤をつくり、生産者の所得向上や経営安定につながることを重要では。

町長 ブランド施策の最終的な成果は、多古米の価値が販売



さらなるブランド価値の向上が求められる多古米コシヒカリ

価格や販路拡大につながり、生産者の所得向上や経営の安定につながることにであると認識しています。ブランド価値の向上による価格の安定化は、農家にとって重要だと考えています。

問 全国から指名されるブランドへ成長させるには、多古米を知らない人も含め、認知度や購入理由、再購入意向、他産地との比較などを調査し、ブランドの現在地を客観的に把握する必要があるのでは。

産業経済課長 幅広い消費者から得られる情報は町としても必要と考えており、調査手法を研究しながら進めてまいります。

**多古米の価値を
見える化し戦略へ**

問 東京農業大学などの共同研究による科学的な価値と、土壌や歴史、生産者の技術などを組み合わせ、多古米ならではの価値を明確にするともに、生産者、JA、販売事業者などが連携した中長期的なブランド戦略が必要では。

萩原 宏紀 議員

所要時間 60分



産業経済課長

科学的根拠と、生産者の努力、土壌、歴史などを一つのストーリーとして組み合わせ、ブランド価値の見える化を進めます。また、多古米グランプリ実行委員会では今後のブランド戦略を協議してまいります。

ブランド価値を持続可能な農業へ

問 ブランド価値を高め、相場変動に過度に左右されにくい販売基盤ができれば、農家の経営安定や規模拡大、担い手確保を後押しし、耕作放棄地の問題の解消にもつながるのでは。

産業経済課長

価格の安定化は農家にとって重要です。価格の上下動が激しいと新規就農者の経営も安定しません。価格がある程度保障されれば、規模拡大や耕作放棄地の解消にもつながる

**増え続ける遊休農地の
実態把握を**

問 水田の遊休農地は令和3年度末の164.2haから令和7年度末には226.6haへ増加しています。農地ごとに遊休化した原因や状態を把握する必要があるのでは。

産業経済課長

個々の遊休農地の状況把握は重要です。担い手が受けられない農地や、条件が悪く受け手がいない農地などについて調査してまいります。



遊休農地になりやすい谷津田

町の米政策の今後は

答 安心して生産できる体制作りが重要です

町の米生産の現状は

問 生産者支援のための町の具体策は。

産業経済課長

米需要データの情報提供や、主食米だけでなくWCS[※]や飼料用米、加工用米といった取り組みの上で経営の安定を図っていただきたいと考えています。

問 令和7年度および令和8年度の飼料用米、加工用米、WCSの作付け状況は。

産業経済課長

令和7年度は、飼料用米11.7ha、加工用米10.7ha、WCS53.5haです。令和8年度は、飼料用米ゼロ、加工用米10.7ha、WCS18haです。

問 主食米以外の町の支援策は。

産業経済課長

国の助成の他に、町単独助成で水田活用推進補助金を設けています。飼料用米、加工用米、WCSについては10アール6000円、WCSで団地化されればさらに10アール1000円が上乗せされま



多古米の生産を支える農家

菅澤 博隆 議員

所要時間 90分



産業経済課長

再生産ができないような価格設定になっているという状況については町としても憂慮すべき事態と考えています。米価格については国全体の課題ですので、国の方で生産者、消費者、双方が納得できる、より安定した価格形成の形を考えていただきたいと思っています。

問 これだけ厳しい状況の中で、多古米に関しての町長のお考えは。

町長

町として現場の生産者の皆様に寄り添うという対策は非常に大切と考えています。価格変動に限らず、経営リスクを下げるセーフティネットであったり、多古米ブランドを構築するための様々な補助金であったり、多古米グランプリのPR、ふるさと納税、道の駅の価格安定策、輸出米の拡大などを進めてまいります。また、米価格の安定という点については近隣市町やJA、

有害鳥獣被害の軽減策を

問 現在、全国的に自治体でのガバメントハンターの設置について関心が高まっています。イノシシの止めさは非常に危険な作業であり、現状では銃砲による止めさが最も安全であると思われます。将来を見越しての対策としてガバメントハンターの設置について町の考えを伺います。

産業経済課長

直ちに設置するということはありません。組織体制を考えることによって費用負担的な点を軽減できる可能性もあるかと思っております。今後の研究課題とさせていただきます。



農作物を守る鳥獣被害対策

※ Whole Crop Silage(ホールクロップサイレージ)…穂が出た段階で、茎葉部分と穂の部分を刈り取り、フィルムで密閉し発酵させた飼料
※ ガバメントハンター…狩猟免許や専門知識を持ち、自治体の職員として野生鳥獣の被害対策や捕獲を担う公務員ハンター